

- 各学校へのお願い 『職員室掲示用』として教職員の皆様に周知していただければ幸いです。(年4回発行予定)

つばさだより

第3号
 発行日：平成21年10月26日
 発行者：稚内市学校適応指導教室
 稚内市教育相談所
 TEL・FAX (0162) 24-4320
 子育て電話相談 (0162) 24-4402
 フリーダイヤル 0120-085-415

インフルエンザが猛威をふるい学校行事が延期になった学校が続出と聞いております。秋を観察に野山に出かけるなど季節を感じる前に、この流行にビックリさせられます。子どもたちの元気な声が聞こえてこそ学校なので早く下火になることを願っています。

つばさ学級の通級生も一歩を踏み出し、自分の思いを行動に移すなど成長が見られたり、なかなか続けて通級ができなくなったりということもありますが、今を認め見守りをしております。

さて第三回適応指導委員会では中央小学校の須山先生から丁寧な話題提供がありました。不登校・不登校気味の子どもへの関わりのあり方を学校全体で取り組んでいることに心安らぐ思いで聴いておりました。

教育活動も子ども個々の課題も多岐にわたっている中での目配り、気配り、心配りは大変なものだと察しております。そのような中で適応指導委員会に出席され、子どもたちの様子を自校だけにとどまらず交流し明日からの一歩につなぐことは意義あることだと思います。今後とも不登校気味のうちに「相談所」「つばさ」を活用していただくようお願いいたします。



第三回適応指導委員会では

「組織的な動きを課題解決の糸口に…」を表題に『子どもの自立のためには』『生徒指導をすすめるにあたって…』と日々の実践を詳細に記録されていました。

子ども達との信頼関係づくり、保護者との信頼関係を土台にして学年部会や関係機関と一致した中で子どもと向き合っております。

親子、友達との関係づくりがうまくいかない、環境適応への不安等々…要因を探る中で登校への可能な条件を作り出し、一歩を踏み出していった実践が日を追って記されていました。学年部会、指導部の連携のもと保護者への熱心な働きかけの中から(保護者を孤独にさせない)「教室に入れてうれしかった」の第一声で大きな一歩を踏み出した実践、つばさの通級生が学校行事の宿泊学習に参加するという画期的な一歩の乗り越えもありました。「君は中央小の〇年生」と学級担任・指導部の先生のさりげない中に励ましと働きかけがあり、これが心に響いていったと思います。

子どもの中には、ふと「なんのために学校に行くのだろう」「なぜ勉強するんだろう」「どうして友達と仲良くしなければならないのだろう」と考え立ち止まったときに学校に行けなくなることもあります。家庭の中で居場所や自分の振るまい方がわからなくなりはっきりとした意識がないままに不登校傾向になることもあるようです。そのようなときに、丁寧に根拠を示してあげ納得をしたなら次のステップを踏み出していくのではないかと思います。

ご案内 → **第四回適応指導委員会は 11月10日(火) 15:30開催予定です。**

各学校の実態交流のなかから
 今年度は、各学校の不登校や別室登校の子どもを追跡調査をしながら交流をしております。学級に戻れた、部分的に学級に入っている、サポート体制をつくりそれぞれの役割のもとに働きかけ良い結果につながっている等々が話されました。どのようにしたら不登校にならないのかはわかりませんが、登校を渋りだした時点で早期対応していくことが大切ではないかと思います。



秋は よく見て よく聴く

気になる子はいませんか

- 二学期も後半戦にさしかかっています。二学期は、良い意味でも悪い意味でも子どもは変化します。子どもが主役の学校づくりは、子どもを中心に据えた先生達の教育活動を積み重ねることで実現します。そのためには
 - ◇子どもの姿をよく見ること。
 - ◇子どもの話をよく聴くこと。
 - ◇行動や言葉の背景になっていることをよく考えること。
 この三つが不可欠です。これは一朝一夕にできることではありません。わかったつもりになることも怖いことです。よく見る、よく聴く、そしてよく考えるためにどんなことをしていけばよいのでしょうか。子どもたちとの生活の中で具体的に考えながら実践し続けることが大切です。



- よい教職員師集団は、「学校は1つの組織だという意識」を持っています。
 - 〈抱え込まない〉
 気になることが出てきたら自分一人だけで解決しようと思わずに教職員間で話をしたり、相談しあったりすることです。一人の子どもについてその「育ち」や「生活の現状」を語り合いながら多角的に考えていくことが大切です。
 - 〈同じゴールに向かって〉
 担当や当事者だけでなく共有の目標に向かってそれぞれが自分のできる方策で動き出します。さまざまな役割の人が集まってサポートチームを組んだりするなど、自分の立場でできることはすすんで提案し、行動連携を生み出すことです。

■ 秋の関り方…六つのポイントは

- ① 良いところを褒め、やる気を引き出しましょう。大声での叱責は逆効果です。
- ② 子どもの得意な力を引き出しましょう。
- ③ 必要なルールは事前に具体的に伝えて、がんばる姿を褒めましょう。
- ④ 友達関係の調整が大切です。トラブルが起こったとき大人が調整し徐々に手を引いてあげましょう。
- ⑤ 配慮を必要とする子どもだけでなくクラス全体の子どもへの援助も必要です。
- ⑥ 教職員間で共通理解をもつと同時に家庭との連絡を密にとりましょう。